

⑭ 大船カトリック幼稚園 1957(S32)年～

戦後復興は教育から

1950(S25)年7月、カナダケベック州のレデンプトール会が大船梅田500に教会を設立、やがて椿美枝子が近隣の幼児4・5名を集め保育をしたのがはじまりである。52年、大船1005番地に聖アンナの園保

育園を設立。54年、教会ホールに分園を開設し、57年、分園が大船カトリック幼稚園として認可を受けた。(本園は宮崎カリタス修道女



1957年 第1回入園式

会に委託)保育料は700円であった。

63年園舎敷地を郵便局(現大船行政センター)に売却し、裏の埋め立て地に教会を新設、後方に滑車を使って幼稚園の建物を移動改築した。工事中園児はスクールバスで鍛冶ヶ谷幼稚園(横浜市栄区)に通園したが、64年5月、現在地(大船 2-1-34)に園

ってきた。

教会と幼稚園連携のため神父が園長を務め、遊具作りやペンキ塗りも行った。手作りの大きな土管の汽車やとんがり屋根の遊具で遊び、初期のころは、降園時先生が大船駅の入場券を買い、連絡通路を通して観音様側まで送っていた。

豪雨や台風で柏尾川が氾濫し、教会前の道路が川のように増水し、園長の神父がゴムボートに園児を乗せて避難したこともあった。

毎月1回親子コーラスの練習があり、藤原歌劇団の森田先生が30年間指導した。

カトリックの幼稚園



毎朝のお祈りや、聖堂での誕生会、5月の聖母月にはマリア様に絵や花をささげ感謝を伝えた。クリスマスに

組の子供たちはその前で聖劇を演じた。

親たちも聖書の勉強会や、教会の信者とともに「小さき花の園」(現鎌倉療育医療センター)のボランティア活動に参加した。

82年、学校法人聖トマ学園の傘下に入った。

もう一人の友だちのために

年長組の女子が持ってきた募金弁当がきっかけで、恵まれない「もう一人のお友だち」のことを考える活動が広がった。月に一度のおにぎり弁当の日、おかずを少しだけ我慢しその分のお金を分けてあげたいという気持ちが育つよう、働きかけている。集まったお金は、カリタス・ジャパン(全国カトリック社会福祉協議会)他、必要とされる所へ送金している。



ボリビアのドンボスコ児童養護施設の給食風景。

ここの給食用のお米は「支える会」で支援しております。食べ盛りの大勢の子どもたちが毎日の食卓を囲める幸せを味わっています。